

高精細デジタル画像の応用に関する調査研究 (①情01-08-3/5)

目 的

本研究では、前の中期計画5カ年において開発した画像形成方法を踏まえ、着色仏画・彩色壁画・油彩画・日本画・漆絵などの美術品を対象とし、それぞれについて、(1)光に対する物性の検討、(2)光物性の画像化に関わる技術開発、(3)形成画像の汎用的な活用法(表示・出力)に関する条件整備を行い、広範な文化財研究を支援するために不可欠な研究画像を形成し、それらを応用・利用する方法を探ることを目的とする。

成 果

1. 他機関との共同研究：本研究は、先の中期計画において開発した画像形成技術を用いた画像の汎用的な活用・運用を行う方法・技法の研究に重点を置いている。脆弱な材料で構成されている我が国の貴重な文化財を間近で精査・鑑賞する機会は限定されており、文化財の高精細な画像や特殊撮影画像を公開し、多目的な利用に供することは、文化財への理解を深め、実物の保存と共に活用の道を開く有効な方法である。

(1) 成果報告書の刊行

- ・平成17年度に国立故宮博物院(台湾)との共同研究として行った孫過庭筆「書譜」の成果報告書『孫過庭書譜光学検測報告』(08.10)を刊行した。
- ・平成17年度に行った平等院との鳳凰堂仏後壁の共同研究成果のうち『平等院鳳凰堂 仏後壁 調査資料目録—カラー画像編—』(08.12)を刊行した。

(2) 今年度の共同研究と作品

- ・宮内庁三の丸尚蔵館(「春日権現験記絵巻」「動植綵絵」)の調査・撮影(5/19-23, 6/16-27, 9/1-3, 8, 11/25-28, 12/1-5, 10-12, 17-19, 1/20-23, 26-30)
- ・奈良国立博物館(「春日権現験記絵巻披見台」および「法隆寺金堂釈迦三尊像ならびに薬師如来像の台座羽目板」08.11.4-7)

2. デジタルコンテンツの多目的利用の一環としての画像展示

- ・東京文化財研究所エントランスロビー パネル展示「洛中洛外図屏風(ロイヤル・オンタリオ美術館蔵)の修理について」(08.4.1-08.8.26)
- ・東京国立博物館黒田記念館2階展示室「写された黒田清輝Ⅱ」(09.3.19-09.7.9)

3. 研究発表

- ・江村知子「彦根屏風の表現について—日本絵画史の視点から」総合研究会 08.7.1
- ・城野誠治「光学的手法による彦根屏風の調査」総合研究会 08.7.1

4. 論文

- ・城野誠治「文化財を捉える撮影の方法と特殊性 多様な文化財にいかに対応するか」別冊太陽『国宝鳳凰堂の仏後壁 平等院王朝の美』pp.82-83 09.2
- ・城野誠治「謎解きが始まろうとしている 新たな歴史を刻む発見」同『国宝鳳凰堂の仏後壁 平等院王朝の美』pp.14-19 09.2

研究組織

○田中淳、津田徹英、山梨絵美子、勝木言一郎、塩谷純、綿田稔、皿井舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子(以上、企画情報部)